



プラスアルファのエキス

渡辺恵子（徳島県）

今から六年前のこと。八十歳で一人暮らしをしていた母が体調を崩し、施設に入所した。

それから半月ほど経った頃、施設の方から、母が使用している化粧水と乳液が少なくなってきたとの連絡が入った。

早速母を訪ねると、母は私の顔を見るなり、一枚の名刺を私に差し出して、「Aさんに電話して、ここに届けてもらって」と言った。





母の使用している化粧品の銘柄を見ると、全国的に流通しているものだった。

「お母ちゃん。これだったら、ネットで買えるよ。今から最安値情報、調べてみるね」
そう言いながらスマホを手にとった私を、母は制した。

「とにかくAさんに、ここに来てもらって。私はAさんの化粧品じゃないと嫌なの」
頑として譲らない母に根負けした私は、しぶしぶAさんに連絡を取った。

Aさんとは、いつからの繋がりなのだろう。訪問販売で買うなんて、騙されて高価な商品をいっぱい売りつけられているに決まっているわ。

猜疑心と警戒心いっぱいの心境で待ち構えていたところへAさんがやってきた。六十代くらいの年格好で、温和な感じの女性だった。





母は彼女の顔を見るなり、満面の笑顔を浮かべた。母と彼女との話のやり取りを聞いてみると、これまでの繋がりの深さを感じた。

「じゃあ近いうちに、化粧水と乳液をお持ちしますね」

彼女は帰り際に母にそう伝えて、部屋のドアを開けた瞬間、私に目配せした。彼女の後に続いて廊下に出た私に、彼女は言った。

「化粧水と乳液ですが、まだ一本ずつ新しいのが残っているはずなんです。ご実家のお母様のお部屋を、探してみてくださいませんか？」

彼女の意外な言葉に、私は思わず声が出た。

「どうして、わかるのですか？」





私の問いかけに、彼女はクスツと笑った。

「お母様とは、もう十八年のお付き合いになります。お母様が今までに買われた化粧品は、いつ、何を何個買われたか、すべて記録しています。私がお客様に購入していただく時は、お手持ちの在庫を、必ずチェックしています。少しでも鮮度の良い状態で使っていたらきたいので、余分な商品は極力お渡ししないように努めています。お母様は一カ月ほど前に、二本ずつお求めになったので、わかるんです」

彼女の誠実さに、私は胸が熱くなった。そのとき私は、母がなぜ彼女から化粧品を買ったのか、なんとなくわかったような気がした。

それから彼女は月に一度、母が亡くなるまでの五年間、ずっと母のもとに通い続け





てくれた。商品を購入する時も、しない時も、彼女の微笑みは変わらなかった。

彼女の人柄に魅せられ、いつしか私も彼女のお客さんになっていた。彼女が家に届けてくれる化粧品にはきつと、「プラスアルファのエキス」が入っているに違いない。

【令和元年度・最優秀賞】

